

児童養護施設にランドセルを寄贈する「ラン活」

ホンダカーズ東総

ホンダカーズ東総（加瀬一幸社長、千葉県旭市）は、2020年2月から地域の児童養護施設に対するランドセル寄贈「ラン活」を行っている。お客さまの支援で自動車販売・サービスの成り立っていることへの恩返しとしての社会貢献活動として始めた。永続的な取り組みとして継続していく方針だ。

「ラン活」とは、小学校入学を控えた子どものランドセルを購入するための活動の通称。少子化が進む一方、ランドセルの色やデザインなどが多様化していることも背景に近年、家族行事のように盛んに行われるようになってきている。同社のランドセル寄贈は、単に贈るだけでなく、一般の家庭と同様に一緒に

ランドセルを選ぶところから始めるのが特徴だ。営業エリア内にある5つの施設に対して、担当拠点・推進委員を設置し、ランドセルの選定もたが式や贈呈式なども行う。社員が社会的な活動に参画し、子どもたちと接する場を作っている。

入学の1年ほど前の春、翌春の入学に備え、思い思いの組み合わせでランドセルをオーダーする。オーダーしたランドセルが完成すると、子どもたちと施設関係者を本社に招き、贈呈式を開く。式では加瀬社長が祝福の言葉とともに「マイランドセル」をプレゼント。女性社員

がお姉さん役となり、子どもたちと一緒に箱を開ける。児童養護施設では、入所した子どもたちが家庭のように温かい雰囲気の中で安心して生活できるように、活が送れるよう、地域社会と関わりながら、健全に成長し自立

がお姉さん役となり、子どもたちと一緒に箱を開ける。児童養護施設では、入所した子どもたちが家庭のように温かい雰囲気の中で安心して生活できるように、活が送れるよう、地域社会と関わりながら、健全に成長し自立



寄り添う形で支援。子どもたちが自分で好きなランドセルを選び、そのランドセルを背負って小学校に通ったという思い出が、たくさん思い出の中の一つとして残るようにこの思いを込め、今後も、継続した活動としていく方針だ。

【選考委員コメント】

単なる寄付に止めず、ランドセル選定の段階から寄り添った活動としている。「永続的な取り組み」を基本スタンスとしており、活動の継続が期待される。また、取り組みを通して、同社社員が事業活動を行っている地域にある児童養護施設の存在やさまざまな環境で育っている子どもたちの存在を知するなど、地域への理解を深めることにも役立っている。

子供達の地域社会での健全な成長を支援